

みんなで共創できる、ひらかれた医療をつくる。



OKIYAMA SHO

沖山 翔

アイリス株式会社

代表取締役



インターネットや論文のオンライン化によって、「医学知識」は世界中の医師の間で共有されるようになりました。しかし「医学技術」はまだ共有ができていません。AIの技術でこの課題を解決し、専門医師の熟練技が世界中で共有されるような、そんな医療の姿を目指しています。

.....

●PROFILE

[1985年生まれ]2010年東京大学医学部卒業。日本赤十字社医療センター(救命救急)での勤務を経て、ドクターヘリ添乗医、災害派遣医療チームDMAT隊員として救急医療に従事。2015年 医療ベンチャー株式会社メドレー、執行役員として勤務。2017年 アイリス株式会社 創業、代表取締役。国立研究開発法人 産業技術総合研究所 医用画像ワーキンググループ発起人、救急科専門医、日本救急医学会AI研究活性化特別委員。

●座右の銘

アイリス社名の由来: Art is long, life is short. (医術の道は長く、人生はかくも短い。)

●会社所在地

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-2-1 八重洲セントラルタワー7階

●事業紹介

AI技術を用いた医療機器の開発・製造・販売及び人工知能(AI)技術の研究開発
2022年12月に感染症AI判定機器nodocaの発売・保険適用が開始

●創業年

2017年

●コメント

日本最東端の南鳥島で島に一人の医師を務め、また、都心の病院やドクターヘリの現場で救急医に従事する中で、社会の医療格差を自身で体感することとなりました。医師一人で全ての診療科・病気の専門家になることができなくとも、離島や僻地にも整備でき、小さくて持ち運びができ、そしてスマートフォンのように進化し続けるAI医療機器を通じて格差のない、豊かな医療を実現したいと考えています。

会社の特徴

医師・エンジニア・薬事・経営、
多様な分野のバックグラウンドを持つメンバーが集結

現役医師である代表・沖山をはじめ、医療従事者、厚生労働省・経済産業省ほかの行政出身者、AI世界大会の優勝者複数、大手医療機器メーカー出身者など多数のプロフェッショナルが揃い、深層学習技術(AI技術)を活用し、医師のもつ匠の技をデジタル化するAI医療機器を開発しています。

事業・サービスの強み

匠の技を再現するAI搭載の咽頭撮影用カメラを開発。
昨年12月上市、保険適用開始

「咽頭診察」は、全世界の医療現場で、日常的に最も多く行われている診療のひとつです。アイリスが開発した咽頭撮影用カメラは、咽頭診察をデジタル化しAI技術を用いて、その特徴やその他の身体所見から総合的に疾患を検知する、全く新しい概念の医療機器です。第一弾としてインフルエンザの判定AIを搭載しています。



▲ スタートアップW杯日本代表に選出



▲ AI医療機器 nodoca